

# 令和8年度第1回 感染症発生動向調査協議会

## 議事概要

1 日 時 令和8年4月15日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 感染制御室 室長)  
川本 典生(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 院長)  
和泉 孝治(岐阜県産婦人科医会 岐阜地区 理事)  
高橋 義人(岐阜県総合医療センター 中央検査部部长 兼 臨床検査科部長)

オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長)

事務局 : 杉山 恵里(感染症対策推進課 感染症対策監)  
松岡 真史(感染症対策推進課 技術主査)  
青木 美樹(感染症対策推進課 主任技師)  
酢谷 奈津(保健環境研究所 疫学情報部長)  
野池 真奈美(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:加藤委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題
- (3) 情報提供

5 議事概要

(1) 前月の感染症発生動向について

- ・事務局から3月分の感染症発生動向調査結果について、集計表及び統計グラフ資料に基づいて説明を行った。
- ・月番委員から月番委員作成資料のとおり発生動向に対するコメントがあった。

**【質疑応答】**

なし

(2) 検討すべき課題

●麻しんの全国的な流行について

- ・事務局から別添資料1に基づいて説明を行った。

**【質疑応答】**

(委 員) 麻しん発生時にワクチン接種歴について行政が聞き取り調査をする時、どのくらい

詳しく聞くのでしょうか。若い人の場合だと家で母子手帳を確認すれば分かるような気がしますが、調査時の自己申告ということでしょうか。また、患者だけでなく、健康観察対象となった接触者にも調査するのですか。

(事務局) 調査時に、患者と接触者にもワクチン接種歴をお聞きしています。市町村で住民のワクチン接種のデータが分かる場合もありますが、他自治体からの転入者や外国人の場合は分かりませんので、あくまで本人からの聞き取り結果になります。

(委員) MRワクチンに変わって、それが麻しんワクチンなのか本人に分かりにくくなったのかもしれないですね。MRワクチンって何だろうという感じで。

(委員) ワクチン接種歴も電子化されるといいですね。今は、市町村間で情報が統合されていないから、本人が分からなければ不明ということですね。

(委員) ワクチンを2回打っても発症する人はいます。だからといって、打っても罹るなら打たなくてもいいということではなく、打っていない人に比べて重症度が下がり、他人に感染させるリスクも減りますので、そこをしっかりと伝えていくことが必要で、情報の出し方が重要です。

(委員) 麻しんの排除認定を取り消された国があるようですが、日本でもこんなに増えていますので、排除認定が取り消されたのでしょうか。

(事務局) 日本は取り消されていません。麻しん排除の定義は、適切なサーベイランスのもと、土着株の感染が1年以上確認されていないことです。同じ株による流行が1年以上継続しているのが判明したら排除状態ではないとされます。

(委員) 排除状態でも海外からの流入が問題になりますが、ワクチン接種率を高く維持していれば、入り込んできても踏みとどまれます。接種率が下がると土着して国内で増えて、認定取り消しという事態になる将来的な心配はあります。接種率を9割5分、最低でも9割は維持することが課題です。

(事務局) WHOでは95%以上必要とされています。

### (3) 情報提供

- ・月番委員から月番委員作成資料のとおり情報提供があった。
- ・感染症対策推進課からインフルエンザ警報の解除について情報提供を行った。